

国語科（国語総合α）学習指導案

指導者 印

- 1 履修単位数 5単位のうち古典3単位
- 2 実施日時 令和3年9月15日(水) 第7時限
- 3 学 級 HR (名)
- 4 使用教科書 改訂版 国語総合(数研出版)
- 5 単元(題材)名 描かれた人物の心情を読み取る(歌物語『伊勢物語』筒井簡)
- 6 単元設定の理由

生徒はこれまでの「読むこと」の学習で、書き手の意図を考察し、自身の体験と合わせて考えることで古典作品に親しみをもつ機会を得てきた。本教材は、男女の恋愛や結婚をテーマにしているため、生徒たちが興味関心を持ちやすい内容となっている。本教材は和歌の果たす効果を理解し、和歌を通して登場人物の心情を読み取るために修辞法等を学ぶことのできる作品である。当時の結婚の形態や慣習といった現代との相違点を知り、登場人物の心情を読み取ることによって現代を生きる我々との共通点に気付くことで、生徒自身のものの見方や考え方を豊かにしたいと考えて設定した。

7 単元の目標（読むこと）

- ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。
(関心・意欲・態度)
- ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
(読む能力) (「C読むこと」の(1)のウ)
- ・国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解する。(知識・理解)
(〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のイの(ア))

8 取り上げる言語活動（学習活動）

古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、グループワークを通して自分の考えを持って話し合う。
(「C読むこと」の(2)のウ)

9 単元の評価規準

- A 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、現代を生きる我々の立場から読み深めようとしている。
(関心・意欲・態度)
- B 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、現代を生きる我々の立場から読み深めている。
(読む能力)
- C 歌物語における和歌の修辞や、語句の用い方について理解している。
(知識・理解)

10 指導計画

次	学 習 活 動	評価の規準と方法
第1次 2時間	○文章の構成や展開を読み取る。 ・重要語句や文法的事項・修辞について個人で調べる。 ・主語や展開・和歌の修辞に注意しながら口語訳する。	評価規準C 「記述の点検」
第2次 2時間	○和歌をもとに描かれた人物の心情を読み取る。(本時1/2) ・もとの女の立場になって考える。 ・登場人物の心情や行動の理由を考え、話し合う。	評価規準B 「行動の観察」
第3次 1時間	○学習の振り返り ・全体を通した構成や展開などについて理解する。	評価規準A 「記述の分析」

11 本時の目標と評価規準

平安の時代の背景や風習を理解したうえで、現代に生きる自分たちの心情と照らし合わせながら、和歌にこめられた女の心情とそれを聞いた男の心情を多面的多角的に考えている。(読む能力)

12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準と実際	評価方法
導入 5分	・ 本時の目標を確認する。	・ 目標を電子黒板で説明する。		
展開 40分	1 音読する - 生徒同士で読む力を高めるために、和歌の修辞や区切れを意識しながらペアで読み合いをする。 2 内容を把握する - 登場人物の関係性や気持ちの変化を確認する。 3 男が河内へ行かなくなった理由を考える - もとの女はどのような様子で、どのような気持ちを和歌に込めたのかを理由も含めて考えてワークシートに書く。 - グループワークを行い、各自の考えを根拠を明らかにしながら発表し、意見交換する。 - 文章の展開を踏まえて女の行動の理由を考え、話し合いをする。 - 現代との共通点や相違点を確認し、男が河内へ行かなくなった理由を考える。	- 単語の区切りや文節のまとまりを意識して音読できるよう指示する。 - 重要語句や文法的事項などについて補足する。 - 書けていない生徒には個別で声をかける。 - 自分の考えと他の生徒の考えを比較するため、自分の考えを根拠を示しながら発表するよう伝える。 - 現代を生きる自分たちが予想した行動や心理と女の行動や心理を比べて、話し合いさせる。 - これまでの考えを踏まえて考察させる。	「読む能力」 和歌にこめられた女の心情とそれを聞いた男の心情を多面的多角的に考察し、読み深めている。 Cの生徒への指導の手立て 現代に生きる我々との共通点について考えさせる。また、当時の風習などを理解したうえで相違点についても考えるよう促す。	行動の観察
まとめ 5分	・ 本時の学習の内容を振り返る。	・ 次時への意識付けをさせる。		